

# 学習問題に対して自律的に学んでいける児童の育成

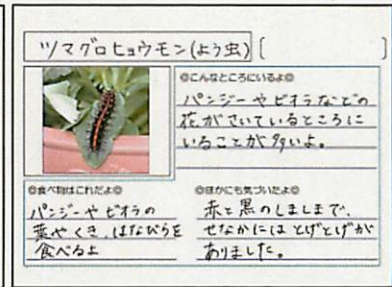
## 第3学年単元「動物のすみかをしらべよう」

佐賀市立西与賀小学校 教諭 秀島 哲

### 1 本研究の主張点

本授業では、自分なりの根拠をもちながら学習問題を解決していこうとする児童の姿（自律的に学ぶ）を目標とした。そのため、①「問題の解決に向けての意欲を高めること」と②「生活経験などをもとに理由付けできる学習問題を設定すること」の2つの手立てをとり、学習問題に対して自律的に学んでいける児童の育成を目指す。

「問題の解決に向けての意欲を高めること」では、動物のすみか調べのときに、「捕まえるための作戦会議」という活動を取り入れた。また、単元の終末に「オリジナル生き物図鑑」の作成に取り組みさせた。



「生活経験などをもとに理由付けできる学習問題を設定すること」では、例えば本時のダンゴムシでは、「落ち葉の下にいたよ」、「植木鉢の下にいたよ」、「土のあるところにいたよ」といった生活経験や友だちの意見を理由に「何かの下にいるみたいだ。土の上にあるものをどかしてみたらつかまえられるそうだ」という予想を立てられるよう学習問題を設定した。

### 2 単元計画 (全5時間)

次	時	主な学習活動
1	1	バッタを見つけるための作戦を立て、見つけに行く
	2	ダンゴムシを見つけるための作戦を立て、見つけに行く (本時)
2	3	校内の生き物を探しに行く (運動場周辺)
	4	学習のまとめをする
	5	校内の生き物を探しに行く (校舎周辺)

### 3 本時の目標

- 生活経験や友だちの意見をもとに、生き物はどこを探せば見つかるのかを考えることができる。(科学的な思考・表現)

### 4 授業の実際

児童の学習活動や主な反応	具体的な指導及び留意点
1 ダンゴムシを見つけたことやつかまえた経験を思い出す。 ・石の下で見つけたよ。 ・落ち葉の下で見つけたよ。	・ダンゴムシの拡大写真を見せ、これまでの生活経験を想起させる。 ・これまでに見つけた場所を交流し、本時の見通しをもてるようにする。
2 本時の学習問題を確認し、見通しをもつ。	・学校のなかの限られた場所・時間でダンゴムシを見つけてくる本時の目標を伝える。

ダンゴムシはどんなところにいるだろうか



3 ダンゴムシを見つけるための作戦を立てる。(④観察・実験の構想)



- ・これまでに見つけた場所の交流を振り返り、どんなところにいそうかの根拠にできるようにする。
- ・小グループで話し合い作戦を立てることで、探す場所の根拠をより意識づけるようにする。

だって、落ち葉があるところで見つけた人が多いよ。

- ・全体で話し合い作戦を発表させることで、帰納的な思考で作戦が立つことをより意識づけるようにする。

なるほど、みんなが見つけた場所に似ている所を探してみたらいいのか。

4 ダンゴムシを見つけに行く。



ブロックの下にいたよ。

- ・場所の範囲を設定することで、前に見つけたことがあるからという経験ではなく、みんなで立てた作戦をもとに探せるようにする。
- ・時間の制限を設定することで、より目的意識をもち探せるようにする。

→「お！作戦通りだね。」という対話が聞かれ、自分たちで考えた方法でダンゴムシを見つけることができたことに有用感を感じることができていると伝わる。

5 どこで見つけたのか報告する。

- ・各班が見つけた場所を発表・交流し、ダンゴムシのいるところの共通点を見いだせるようにする。

6 本時の学習をふりかえる。



- ・各班の発表をもとに、ダンゴムシは「隠れる場所があるところにいる」とまとめる。

→「どうして、ダンゴムシは暗くて狭いブロックの下にいるのか。」と発問したところ、「鳥に狙われないように。」「身を守るため。」という児童の発言があった。これらの発言から、「ダンゴムシは隠れられたり、身を守ることができたりする場所にいる。」というまとめを導くことができた。

5 考察

生活経験をもとに作戦を立てる活動に、意欲的に取り組むことができていた。「みんなが見つけたことがある場所は、石の下や落ち葉の下だから、この写真ではブロックの下にいそう。」と予想することができており、生活経験から帰納的に考えることができていた。

また、単元のまとめに、「オリジナル生き物図鑑」の作成に取り組みさせた。図書室の図鑑を使って、興味をもった生き物のえさやすみかを意欲的に調べていた。生き物は「食べ物があるところにいること」、「かくれられる場所があるところにいること」の学習内容の強化にもつながった。不思議に思ったことを、自分から図鑑を使ったり外に出て確かめたりして調べようという姿が多くみられた。